

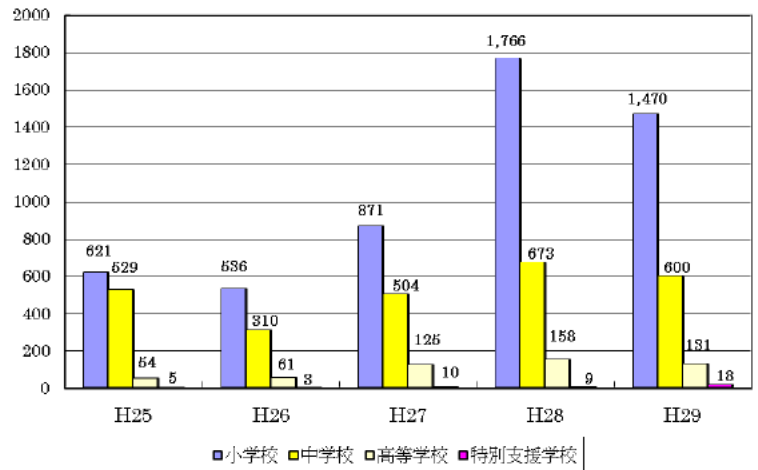
平成 29 年度 公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの状況等

1 概要 (図1・表1参照)

- 平成 29 年度の公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの認知件数は 2,219 件で、平成 28 年度と比較すると 387 件減少。
- 校種別の認知件数は、小学校 1,470 件、中学校 600 件、高等学校 131 件、特別支援学校 18 件で、平成 28 年度と比較すると、小学校・中学校・高等学校で減少し、特別支援学校は 9 件増加。
- 1,000 人あたりのいじめ認知件数は 12.0 件で、平成 28 年度と比較すると 1.9 件減少。

(図1) いじめの認知件数の推移

(単位: 件)

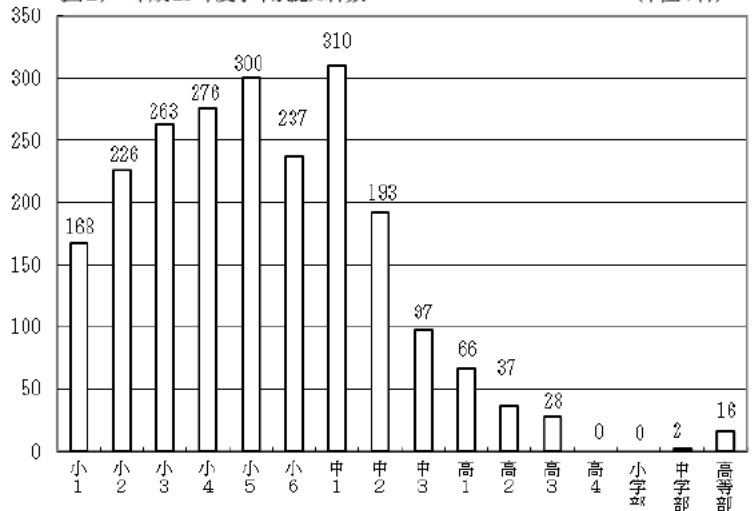


2 学年別認知件数 (図2参照)

- 学年別では中学 1 年生が 310 件で最も多く、次いで小学 5 年生 300 件、小学 4 年生 276 件、小学 3 年生が 263 件の順。

(図2) 平成 29 年度学年別認知件数

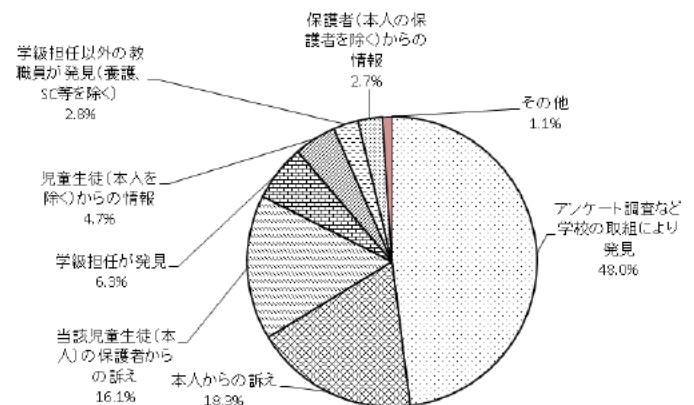
(単位: 件)



3 いじめの解消状況 (表2参照)

- 全体で、1,861 件 (83.9%) が解消。
- 校種別では、小学校 1,236 件 (84.1%)、中学校 502 件 (83.7%)、高等学校 108 件 (82.4%)、特別支援学校 15 件 (83.3%) が解消。

(図3) いじめ発見のきっかけ (全校種)



4 いじめ発見のきっかけ (図3参照)

- 公立小中学校では、最も多い発見のきっかけは、「アンケート調査など学校の取組により発見した」(小学校 791 件、中学校 234 件)。
- 県立高等学校及び特別支援学校では、最も多い発見のきっかけは、「本人からの訴え」(高等学校 40 件、特別支援学校 6 件)。

5 いじめの態様 (複数回答: 表3参照)

- 全校種ともに「冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」が最も多く、認知件数に占める割合は 61.4%。
- 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。」の認知件数に占める割合は 4.7%で、平成 28 年度 (3.8%) と比較すると 0.9 ポイント増加。

6 いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法について (表4参照)

- 公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校の全ての学校において、アンケート調査を複数回実施。